

なつもの元志し

vol.3
みらい
通信



赤字のまま走り続けて大丈夫？ 市民の大切な足「コミュニティバス」は、 みんなの知恵で守ろう！

現在、射水市のコミュニティバスが赤字運営であるということは、すでに周知の事実でしょう。しかし、その莫大な赤字を国の助成金で穴埋めしていることをご存じでしょうか？ 赤字解消に向けた対策を講じることはもちろんですが、貴重な国の助成金は他にも有効な使い道を考えるべきではないでしょうか。

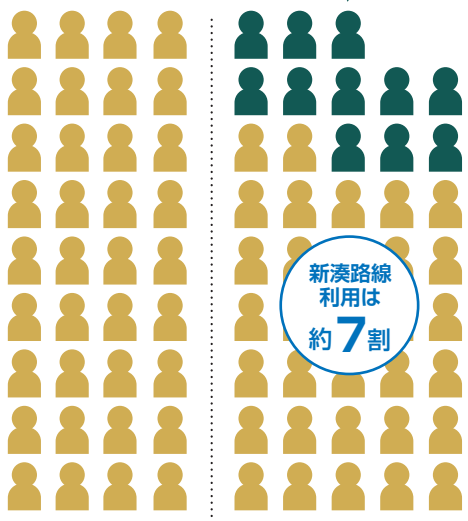
公共交通の整備

対策

地域住民の皆さんのニーズを把握し、魅力アップを推進。

平成19年度のコミュニティバスの年間利用者は、約43万人。うち新湊地区の利用者が全体の約7割を占めていると考えられます（射水市のホームページより）。これだけしっかりと路線、バス停が網羅されているのに、旧射水郡での乗車率は低いのです。これからは地域のニーズを反映させるため、行政と地域住民の皆さんが一体となって運行計画の策定に関わることが重要！ 利用率の低い路線については、該当する地域の住民の皆さんと十分に協議した上で、抜本的な見直し（通勤・通学に特化、周遊路線の設定など）を図り便利な路線づくりに務めます。

旧射水郡路線は
低い乗車率



平成17年度
新湊のみ運行
約36万人

平成19年度
射水市全域運行
約43万人

地域によって
利用率がだいぶ
違うんだね。



乗る人が
少ない路線は
もったいないわね。



公共交通の整備

対策

赤字補填じゃ、もったいない。 国の助成金は有効な活用を。

射水市のコミュニティバスの赤字は、もはや射水市の財政だけではまかなえず、年間2億数千円もの国の助成金「頑張る地方応援プログラム」によって補填されています。しかし、この助成制度は平成23年度で終了。それ以降の赤字はどうするのでしょうか？ そもそも他の市町村では、赤字補填だけではなく多様な使い方をしているようです。射水市でも有効な使い道をもっときちんと考えるべきではないでしょうか。

平成23年度以降は
国から助成金が
出ないそうよ。



平成23年度まで国から
頑張る地方応援プログラム
2億数千円/年間



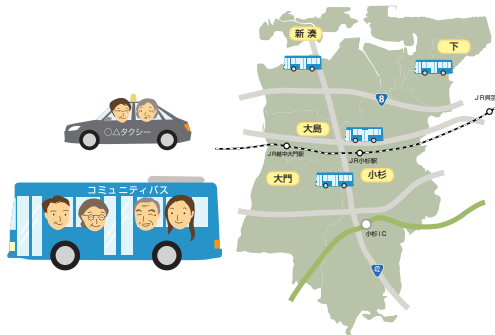
公共交通の整備

対策

公共交通の整備を見据えた 見直しが必要。

運行計画の見直しのために不便が生じる方（車の運転ができない方など）については、タクシー利用券を配布するなど何らかの対応策を講じます。また、小杉駅周辺整備・越中大門駅の南北一体化を進め、JRとコミュニティバスとの接続を配慮した交通形態を実現することも、重要な対応策のひとつとして考えています。

もっと便利な
路線になって
ほしいわ！



なつの元志のマニフェスト「志」 早くも射水市を動かしました!

「現在の統合庁舎計画では、大きすぎて建設することはできません」

「住民の皆さんの意見を聞きながら十分に見直します」。

このように、なつの元志が統合庁舎建設の見直しをマニフェスト「志」に掲げたところ、早速、射水市でも広報いみず11月号にて「考えよう統合庁舎」というコーナーが設けられました。内容もまるでマニフェスト「志」への回答のようでした。今後とも統合庁舎に限らず、さまざまな問題について最新のデータを十分に調査し市民の皆さんからもご意見をいただきながら勉強してまいります。



でも、分庁舎はどんな風に利用するの?

残念なことに、広報いみずでは分庁舎の利用方法が具体的に示されていませんでした。**新庁舎の建設費に加え分庁舎の維持管理費もかかるとなると、相当な予算が必要になるでしょう。分庁舎は「売却」しない限り、維持管理費がかかるのです。**しかし、民間への売却は低迷する今の経済状況では非常に困難。これは旧射水消防署が未だ売却されていないことから推して知るべし! と言えるでしょう。また、分庁舎が空き家になると周辺の商業施設への悪影響も懸念されます。新庁舎を建設するならば、分庁舎の有効利用を具体的に考えなければなりません!



そもそも、合併特例債って何?

合併特例債は、「庁舎建設にしか使えない」というわけでは**ありません**。合併市町村が均しく発展するために行うさまざまな公共施設の整備に使うことができるのです。例えば、旧市町村相互間における道路や運動公園などの整備。合併後の市町村内の行政サービス水準の均衡を目的とした介護福祉施設などの整備。市町村の一体感の醸成を目的とした新しい文化の創造に関する事業の実施・民間団体への助成。旧市町村単位の地域の振興として、地域行事の展開・伝統文化の伝承などに関する事業の実施・民間団体への助成。コミュニティ活動や自治会活動への助成・商店街活性化対策など。どのような使い方が最良なのか? よく調査し、よく議論していかなければなりません。



教育予算、その使い方が問題なのです。



射水市内の小中学校では、施設の管理に十分な予算が与えられず「教室の蛍光灯が切れたけど、新しい物に取り替えられない」「トイレに十分な数のトイレトーパーが備え付けられない」などといった声が聞かれます。

ある資料では、平成20年度決算での一般会計における教育費の比率は15.7%で県内第1位とありますが、3月補正予算時点での教育費約60億円のうち、約32億円はハード整備(新湊南部中学校増改築事業10.9億円、新湊中央文化会館大規模改修事業7.6億円、社会体育施設等維持管理費2億円、小杉小学校大規模改造費7.3億円、東明小学校大規模改造費4.2億円)の予算です。これらハード整備は一時的な教育予算の増加に過ぎず、**除くと教育予算の比率は8%となります。充実した教育“施策”への予算配分が圧縮されている、というのが現状です。**

大規模改修などは災害時の周辺住民の非難場所にもなることから教育費とは切り離し、安全対策として考えて整備を実施。その上で、より良い教育施策の展開に十分な予算配分を行う。これこそが、射水市の未来を考える上でもっとも重要で有効な投資ではないでしょうか。**子どもたちは、地域の宝です。**だからこそ、教育への投資は惜しむべきではありません。



なつの元志が目指すのは、 「みえる自治、わかる政策、わかり合える行政」を確立し、 真の「協働」によってまちづくりを実践する市政です。

どうしたら射水を良くできるのか、なつの元志は常に考えています。「実現できないかも」という難しい政策も諦めたくはありません。市民の皆さんにどんな情報でも開示し、議論を重ね、時にはアイデアをいただきながら、実現に向けて努力してまいります。

市民の皆さんが抱えている不安や不満は市民の皆さんに広く開示し、市民も行政も皆同じ土俵に立ってさまざまな課題を考え行動する、あたたかい射水を築いていきます。

なつの元志 後援会

〒939-0341 富山県射水市三ヶ(本中町) 1006

TEL:0766-55-5651 FAX:0766-55-5674

05113K20